

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	先進的ケア・ネットワーク開発 研究分野
学籍番号	12S3068	院生氏名	渡辺羊子
通学キャンパス	東京青山キャンパス		
論文題目	地域で働く保健師の活動の現状と今後の課題 —首都圏の行政保健師の場合—		
審査結果 (枠で囲む)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> 合格 不合格 </div>		
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 研究の概要</p> <p>本研究は、保健師の活動が、母子保健、生活習慣病予防、介護予防、虐待対策、自殺行為、健康危機管理など増えている一方で、事務的業務が増えており、現在の地域保健で働く保健師はどのように保健師活動を行い、保健師活動をどのようにとらえているかを明らかにすることを目的としている。</p> <p>研究方法は、2つの調査から成る。一つは東京都周辺3県の64自治体のうち31自治体から得た質問紙調査回答の分析、二つは質問紙調査の際に承諾を得た10人の保健師に対するインタビューの分析である。本研究は、国際医療福祉大学倫理審査会の承認を得て実施された(承認番号13-Ig-30)。</p> <p>2つの調査結果を基に、以下のことが考察・結論とされた。①本来の保健師活動について年齢や経験年数に関わりなく「十分に行っている」との認識の低さが伺えた。②地区診断や他機関・他職種との連携などが重点課題・重点活動ととらえられている一方で、健康教育と介護予防の重要性は低くみられていた。③本来の保健師活動に対する自己評価は実践内容を反映していた。④業務多忙、ゆとりのなさ、長期的かつ広く地域の問題をとらえる視野の喪失、介護保険、高齢者部門への自己活動の乏しさが現状のおよび将来の課題としてとらえられた。</p> <p>本研究の新規性は、地域ニーズが急激に変化する中で、地域の健康を支える保健師活動の現状を広くとらえ、保健師活動の今後の重点課題等を示したものであり、介護予防を含め地域包括ケアの充実のために寄与するものである。</p> <p>2. 審査は、1回の口頭発表・試問を行った。口頭発表では、研究疑問の背景及び本研究で何を求めるのかの答えが十分に整理されていなかった。そこで、①研究疑問及び目的を明確にすること、②文章表現の精度を上げること、③目的、結果及び考察の一貫性に留意すること、を指導し論文の修正を求めた。以後、修正に伴う発表は行わず、審査員一同配布された修正論文を抄読し、上記の修正の主旨に沿った内容の意見を伝え、繰り返し修正を続けた。</p> <p>最終的に修正された論文内容について審査員一同合格を確認し合った。</p> <p>3. 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(医療福祉学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 杉原 素子</p> <p>副 査 藤田 郁代</p> <p>副 査 水巻 中正</p>		